

# JOMA 通信

1983年3月 №21

海外宣教連絡協力会公報  
Japan Overseas Missions  
Association

発行者 井出定治

事務局 〒166

東京都杉並区成田西1-16-4

聖書宣教会気付 海外宣教連絡協力会

## 主による派遣と祝福

南米宣教会 佐藤浩之

「今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう」 出エジプト記3・9

ブラジルでの五年間の宣教を終えて、今年一月日本に帰ってきました。第一期目の新米宣教師として赴任したのでありますが、すべての面で主による派遣と祝福のすばらしさを体験させられました。

私は移民としてブラジルに滞在中、救いにあずかり、召命をうけ、そして日本の神学校に学びのため帰っておりました。ところが、学びと訓練の終わった十年目に、再び召命の地ブラジルへ再移民しようとしたところ、道が開かれませんでした。ビザを申請して待つこと一年八ヶ月余り、毎月のように否定的な返事を聞かされるばかりでした。私はあせりといらだちで、「主よ、あなたは行けと仰せられたのに、なぜ道を閉ざすのですか」と訴えていました。ところが、その後間もなく、私たち家族にビザが与えられ、非常にスムーズにブラジルへ入国してしまいました。でも入国後に、領事館の職員から聞かされて驚いたことは、まさに歴史を支配する神の介入によって道が開かれたのだということでした。

実は、東京のブラジル大使館において、私たちを面接した移民官は全くの新人で、古い移民官の

離任と新しい移民官の着任のギャップを埋めるために一ヶ月間だけ、その仕事に任命されていたのだそうです。その一ヶ月の間に、丁度よく彼のもとに書類が届き、面接がなされなければ、私たちの再移民は不可能だったというのです。一年八ヶ月以上も待たせられた理由は、すっかり解りました。派遣の時を定めるのは神であり、それが最善の時なのだと言われました。

次にポルトガル語の学習のことですが、一生懸命にやってもなかなかうまくなりません。それでも教会の要請は、ポ語による二世青年達の指導ということでした。頭を痛めながら準備をし、体あたりで奉仕を続けました。すると以外なことが起りました。五年間の宣教で救われ、洗礼をうけたのは、日本人一世が6人なのに対して、ブラジル二世は24人にもなったのです。私はもう一度モーセの召命の記事を思い出しました。

「私は口が重く、舌も重いのです」

「さあ行け、私があなたの口と共にあって、言うべきことを教えよう」

なんという力強い慰めでしょう。主の力は弱さの内に完全にあらわれるからです。

宣教の四年目に会堂の建築工事が始まりました。丁度ブラジル経済の最悪状態の中でした。インフレ100%、倒産、首切りが教会員の身近な問題として迫っていました。その中で会堂建築に不安をいだかない者は、だれもいません。私たちの信

仰は小さく、弱々しかったのです。

ところが、ある引退牧師がブラジルを旅行して帰国されてから、多額の献金を送って来られました。また別の教会の婦人会からも多額の献金があり、これらが起爆剤となって、教会員の腹が決まり、生活の不安をのり越えて、工事を完成させました。

「主の山に備えあり」。この言葉が、私たちに与えられた信仰の告白となりました。しかし私は別の意味で主に感謝しました。「この40年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった」(申命記8・4)

会堂工事と借金返済の期間中、誰も失業することなく、生活におびやかされることのないようにと祈っていましたが、主は完全に教会員を守って下さいました。神の御旨を行なおうとする者を、主は忠実に憐んで下さったのです。

主による派遣には、主ご自身が伴っていて下さると確信しました。

派遣地において、主の御業をまのあたりに見させられた私は、本当に慰められ、強められました。すばらしい五年間でした。ハレルヤ。

## …… 英国海外宣教事情 ……

聖書同盟・CSK主事 稲垣 博史

日本のJOMAにあたる英国EMA(福音的海外宣教協力会)には、74の海外宣教団体と18の神学校が加入し、海外宣教に関する様々な活動を行なっています。1981年にEMAが英国聖書協会と協力して発行した海外宣教ハンドブックによりますと、英国の海外宣教の状況が少しづつ変化していることがわかります。

第一の変化は、派遣宣教師の数の減少でしょう。1972年に5,100人だったのが、1980年には、4,200余となっています。年間2.4%の減少ということになります。この減少がどういう理由によ

るものか定かではありませんが、現在英国の諸教会が、海外より国内宣教に力を入れ始めていることは確かです。今年はロンドン宣教の年ということで、ロンドン周辺の福音的諸教会が協力して一斉伝道を行なうことになっていますし、来年はイギリス全体でビリー・グラハム伝道を実施する準備が着々と進められています。国内景気の後退、ポンドの下落などが背景にはあるのですが、キリスト教国と言われながらも低迷が続いていた英国の諸教会が自らの同胞への宣教に目覚めた結果が海外宣教師の減少として現われていると見ることもできるでしょう。

第二の変化は、宣教師派遣の地域の変化です。アフリカ大陸への宣教師の数は、国によって20%から40%も減少しています。これは各国のナショナリズムの抬頭によるところが大きいと言われていています。その代わり、英国内の移民へ伝道する国内宣教師の数が増えています。インド人をはじめパキスタン人、黒人などの移民が増えていることは周知の事実ですが、同時に彼らの宗教一主として回教一の勢力も増えています。ロンドンの中心部には大きな回教寺院がありますし、筆者の住んでいた町の近くにも回教寺院の建設が許されたというニュースを聞きました。国内における海外宣教の必要が生まれてきている状況に英国の教会が対応し始めているところなのです。

第三には、引退宣教師の数の増加が挙げられるでしょう。1980年には、海外で働く宣教師の約40%にあたる1,432人の引退宣教師がおり、その数は8年間で60%も増加しています。宣教師の数が多き大宣教団体(最大369人、平均では50人)にとっては、さほど困難な問題ではないようですが、小さな団体ではかなり大変なようです。この問題は私たち日本の教会では未経験の分野ですが、これから必ず直面する問題であり、取り組むべき課題の一つのように思います。

最後に言えることは、各団体の財政が厳しい状況にあるということです。過半数の団体がインフレーションのペースに追いつけないまま苦しいようです。12の団体は、1980年の収入が4年前よりも少なくなっているということですから、送り出す宣教師の数が少なくなっている直接の原因はここにありそうです。それにしても、英国中の教会員が海外宣教のために献金している額は、一人あたり年間3,000円弱ということですから、見方によっては、まだまだ可能性があるとも言えます。

筆者の出席していた教会には、子どもたちの海外宣教クラブのようなものがあり、アフリカの村の模型を作って礼拝で見せてくれたことがありました。幼い時から海外宣教への関心と重荷をごく自然な形で育てていたのが印象的でした。私の学んでいた神学校でも、海外宣教志望の若い人たちに何人も会いました。確かに英国の教会の海外宣教の状況は変化しつつありますが、その根は広く、深く張っていることを感じています。

#### —— 役員会 だ よ り ——

1982年度JOMA会長 井出 定治

82年度の役員会は、4月12日の総会後に打合せをして以来、5月10日、7月26日、11月22日と持って参りました。当初、会計の引継ぎで一部印刷物が紛失したりして心配をおかけしましたが、無事解決し、事務所には中古のキャビネットを入れ、JOMAの書類は一応全部そこに納まっています。

主事を置かないで出発した第二年目ということで、経費はかからなかったものの、十分な活動が出来ませんでした。しかしハドソン・テラー三世を迎えての研修会と、「宣教師の語る海外宣教」の出版を果すことが出来、いずれも好評ですので感謝しています。特に出版物の方は、宣教師を志す人々のみならず、教会員の啓蒙のために役立つ

ようです。ご利用下さい。

83年4月の総会で役員が変わりますが、新しい宣教地図の作成などが必要となります。よろしくお願ひしたいと思います。諸団体、諸先生方の協力を感謝します。

#### —— 出版情報 ——

『宣教師の語る海外宣教—海外宣教を志す人のためのガイドブック』（B5判・32ページ、¥200）

昨年の秋、日本から各地に派遣されて活躍中の宣教師の方々のご協力を得て原稿をいただき、JOMAでまとめたもので、執筆者とトピックは以下のとおりです。

宣教師子弟教育（アンテオケ宣教会・安海靖郎・通子師）、現地教会との問題（日本基督改革派・入船尊師）、異文化適応の問題（アンテオケ宣教会・奥山実師）、健康管理（アジア福音宣教会・片山和郎師）、デピュテーション（日本アッセンブリー教団・佐々木正明師）、宣教地言語の習得（日本同盟基督教団・清野勝男子師）、事務局と宣教師の関係（国際ウイクリフ聖書翻訳協会・鳥羽季義師）、宣教師生活十ヶ条（南米宣教会・中田智之師）、健康管理（海外宣教交友会・牧野直之師）、デピュテーション（日本福音自由教会・横内澄江師）、宣教師の訓練（世界福音伝道団・K・S・ラウンドヒル師）

いずれも宣教奉仕からにじみ出た生の声だけに説得力に満ち、海外宣教を志す人はもとより、広く皆様の教会でお役に立てただけだと存じます。各教会・神学校、団体にまとめてお申し込みいただくと感謝でございます。送料は次のとおりです。1部—¥170、2~3部—¥240、4~6部—¥350、7部以上は小包料金（郵送時に請求させていただきます）。申込先：〒166 東京都杉並区成田西1-16-4 聖書宣教会気付 海外宣教連絡協力会（JOMA）

# JOMA加盟団体一覧表（50音順）

## 1. アジア福音宣教会

〒602 京都市西陣郵便局私書箱 88 号

## 2. アンテオケ宣教会

〒330 大宮市東新井 17-2

片柳福音自由教会内

アンテオケ宣教会から派遣されている宣教師は  
アラスカ・熊井師，アルゼンチン・杉山師，イン  
ドネシア・安海師，栗原師，森本師，平野師，ネ  
パール・森師，パキスタン・田中姉である。短期  
教育宣教師第 3 号松田姉が安海学校で半年奉仕の  
ため準備中。

## 3. 海外宣教交友会日本委員会

〒184 小金井市私書箱 11

## 4. 国際ウイクリフ聖書翻訳協会日本委員会

〒168 東京都杉並区浜田山 4-31-7

## 5. 聖書同盟

〒182 調布市仙川町 1-33-30

## 6. 世界宣教協力会

〒540 大阪市東区森ノ宮中央 1-16-15

三双ビル 2 F

## 7. 東洋ローアキリスト伝道会海外宣教委員会

〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町大字市場

1132-1

## 8. 南米宣教会

〒156 東京都世田谷区松原 2-29-19

朝顔教会内

## 9. 日本アッセンブリー教団海外伝道部

〒170 東京都豊島区駒込 3-15-20

## 10. 日本福音自由教会海外宣教委員会

〒332 川口市飯塚 1-17-4

川口福音自由教会気付

## 11. 日本ホーリネス教団伝道局海外宣教委員会

〒189 東村山市廻田町 1-30-1

## 12. PBA海外電波宣教を支える会

〒101 東京都千代田区猿楽町 2-2-3

N.S.ビル

## J O M A 会 計 報 告

	81年度予算	81年度決算	82年度予算	82年度決算	83年度予算	注*1) 利子分
収 入						*2) 積立金
会 費	546,000	504,000	504,000	504,000	504,000	*3) JOMA通信 19~
入 献 金	150,000	68,673	50,000	3,000		21ガイドブック
の 雑 収 入	100,000	89,020	30,000	6,412*1		*4) アルバイド費
部 前年度繰越	2,812	2,812	0	188,225*2	0	
	<u>798,812</u>	<u>664,505</u>	<u>584,000</u>	<u>701,637</u>	<u>504,000</u>	積立金
						80年度 74,590
						81年度 113,635
						計 188,225
						82年度 83,197
						(83年度繰入れ)
						一通帳残高
						古山洋右, 稲尾三活
支 出						(評)
の 事 務 費	100,000	54,670	100,000	78,474	100,000	専門の事務員をおき、
支 出 予 備 費	8,812	0	34,000	0	24,000	正式の事務所で三役
	<u>798,812</u>	<u>550,870</u>	<u>584,000</u>	<u>118,440</u>	<u>504,000</u>	が集合して働きたい。
						(稲尾)
	82積立金入れ	113,635	83積立金繰入れ	83,197		
	合計	664,505	合計	701,637		